

教材名「ブラッドレーのせい求書」／「お母さんのせいきゅう書」

内容項目：主として集団や社会との関わりに関すること—家族愛・家庭生活の充実

光村図書 4年 p.108 教育出版 4年 p.76 学校図書 3年 p.12 廣済堂あかつき 3年 p.70 は「ブラッドレーの請求書」として掲載。東京書籍 4年 p.104 光文 4年 p.32 学研未来 4年 p.64 日本文教 3年 p.78 は「お母さんの請求書」として掲載。東京書籍・学研未来・日本文教は、内容を日本の母と子に改稿している。

1. 本教材について

▼のんきに請求書を書ける子ども。子どもたちを取り巻く実態と乖離しているのではないか。現在、家族の変容が指摘されているが、格差の拡大の中で、長時間の労働を余儀なくされている家庭では、子どもが家事をせざるを得ない。そういった家庭で、子どもはのんきに請求書を親に突きつけるだろうか。

▼実際に親が子どもの面倒を見ることができない家庭の子どもたちは、自分で家事をしている（「ネグレクト」問題、子どもが親の面倒を見る「ヤングケアラー」問題）。そのような中で本教材では、お母さんの請求書として、子育ての必要経費と「愛情」に関わる項目にふれ、それを0円とすることで「無償の母親の愛」を強調することになっている。子育てについては家族が多様化する中、担い手を母親に特化することは実態に即していないし、性別役割分業の意識を子どもたちに植え付けることになりかねない教材である。

▼育児・介護を含む家事労働の経済評価については、議論があるところである（ケア労働論・アンペイドワーク論）。無償という意識を強調することが、対価を求めることはよくないという日本の労働観に沿ったものだと、指摘することもできよう。

▼以上から、クラスの子どもたちの環境に配慮して、この教材は取り上げないという選択もある。

2. 本教材を扱う際に、特に注意すべきだと考えたこと

▼母親の無償の愛に特化させない展開を追求し、家事労働を、家族の構成員がそれぞれの状況に応じて担う「分担」を考える方向を示した。

参考資料

いとうみく『かあちゃん取扱説明書』／村中李衣『かあさんのしっぽっぽ』

(廣済堂あかつきに参考文献としてあげられている)

指導過程

	子どもの活動や教師の発問等	留意点
導入	家の中であなたがやっている仕事は何？	家庭状況に課題を抱える児童への配慮

<p>展 開</p>	<p>子どもたちがやっている仕事に報酬を求めるとしたらいくらか 考えてみよう この請求書を家族に見せたらなんて言われるか想像してみよう ⇒話し合ってみよう（隣の人と）⇒4人で 教科書を読む：2つの請求書について感想を述べる こどもの請求書／お母さんの請求書 感想を話し合う</p>	<p>金額が荒唐無稽になったら、 アドバイスする 自由に考えたい 母の「無償の愛」に気付かせ る誘導はしない</p>
<p>ま と め</p>	<p>家族が暮らしていく中で生じる「仕事」は誰が担うべきかを話 し合う 家族で協力すること、家族の一員であるということについて考 えてみよう。</p>	<p>家庭状況に課題を抱える児童 への配慮を忘れない</p>